



平成30年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年5月7日

上場会社名 浜松ホトニクス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6965 URL <http://www.hamamatsu.com/ja/ir/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 晝馬 明
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 森 和彦 TEL 053-452-2141
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月10日 配当支払開始予定日 平成30年6月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年9月期第2四半期の連結業績（平成29年10月1日～平成30年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第2四半期	73,074	12.5	14,995	34.3	15,217	27.0	10,429	17.0
29年9月期第2四半期	64,953	3.4	11,161	0.5	11,978	7.1	8,917	13.1

（注）包括利益 30年9月期第2四半期 9,892百万円（△20.2%） 29年9月期第2四半期 12,390百万円（128.8%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第2四半期	66.79	—
29年9月期第2四半期	56.69	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第2四半期	234,849	184,769	78.4
29年9月期	239,331	187,558	78.1

（参考）自己資本 30年9月期第2四半期 184,099百万円 29年9月期 186,939百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	17.00	—	17.00	34.00
30年9月期	—	17.00	—	—	—
30年9月期（予想）	—	—	—	17.00	34.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年9月期の連結業績予想（平成29年10月1日～平成30年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	144,300	10.6	26,600	16.4	26,900	11.9	19,200	8.0	124.03

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年9月期2Q	167,529,968株	29年9月期	167,529,968株
② 期末自己株式数	30年9月期2Q	12,732,342株	29年9月期	10,213,886株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年9月期2Q	156,152,114株	29年9月期2Q	157,316,201株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に設備投資が増加傾向となり、輸出も持ち直すなど、緩やかな景気回復基調となりました。しかしながら、欧米の政治動向や東アジア及び中東における地政学的リスクに加え、3月末にかけて円高傾向となる等、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況におきまして、当社グループは、将来に向けた中長期的なビジョンのもと、長年培ってきた当社独自の光技術を活かした研究開発並びに積極的な設備投資を継続することで、売上高、利益の拡大に努力してまいりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は73,074百万円と前年同期に比べ8,121百万円(12.5%)の増加となりました。また、利益面につきましても、営業利益は14,995百万円と前年同期に比べ3,833百万円(34.3%)の増加、経常利益は15,217百万円と前年同期に比べ3,239百万円(27.0%)の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は10,429百万円と前年同期に比べ1,511百万円(17.0%)の増加となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[電子管事業]

光電子増倍管は、医用分野におきまして、PETなどの核医学検査装置向けの売上げが減少いたしました。しかしながら、血液分析などの検体検査装置向けがその高感度、低ノイズ、高速応答特性を評価されて堅調に推移いたしました。また、計測分野におきまして、高温や衝撃、振動などへの耐性に優れた油田探査装置向けの売上げが増加いたしました。

イメージ機器及び光源は、産業分野におきまして、X線非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源がその高精度かつ高い信頼性・安定性を評価されて国内外で売上げが好調に推移いたしました。また、医用分野におきましてX線画像を可視像に変換するX線シンチレータの売上げが堅調に推移いたしました。さらに、環境分析等で用いられるキセノンフラッシュランプ及び重水素ランプも売上げを伸ばしました。

この結果、電子管事業といたしましては、売上高は27,941百万円(前年同期比15.5%増)、営業利益は10,003百万円(前年同期比19.6%増)となりました。

[光半導体事業]

光半導体素子は、産業分野におきまして、半導体製造・検査装置向けのイメージセンサ等の売上げが好調に推移したほか、産業用ロボット等の制御などFA(ファクトリーオートメーション)分野におけるフォトIC、フォトダイオード及びLEDの売上げも増加いたしました。また、医用分野における売上げも堅調に推移いたしました。

この結果、光半導体事業といたしましては、売上高は34,157百万円(前年同期比14.3%増)、営業利益は11,282百万円(前年同期比29.3%増)となりました。

[画像計測機器事業]

画像処理・計測装置は、遠隔病理診断等で用いられる病理デジタルスライドスキャナの売上げが、新製品の投入もあり欧州を中心に堅調に推移いたしました。しかしながら、半導体故障解析装置が、下期への受注の集中により、売上げが減少いたしました。また、生命分野やバイオ分野で用いられるデジタルカメラの売上げも減少いたしました。

この結果、画像計測機器事業といたしましては、売上高は8,681百万円(前年同期比1.6%減)、営業利益は1,880百万円(前年同期比2.0%減)となりました。

[その他事業]

半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

当セグメント(その他)の売上高は2,293百万円(前年同期比11.5%増)、営業利益は198百万円(前年同期比71.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

流動資産の主な変動は、受取手形及び売掛金が1,738百万円増加したものの、現金及び預金が13,588百万円減少したことなどから、流動資産は前連結会計年度末に比べ12,001百万円減少しております。

固定資産の主な変動は、有形固定資産が建物及び構築物の増加などにより3,177百万円、無形固定資産が米国子会社の買収に伴うのれんの増加により3,927百万円それぞれ増加したことから、固定資産は前連結会計年度末に比べ7,519百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4,482百万円減少し、234,849百万円となりました。

流動負債の主な変動は、電子記録債務が3,385百万円減少したことなどから、流動負債は前連結会計年度末に比べ2,335百万円減少しております。

固定負債の主な変動は、厚生年金基金解散損失引当金が534百万円増加したことなどから、固定負債は前連結会計年度末に比べ642百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,693百万円減少し、50,080百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が7,750百万円増加したものの、自己株式の取得により9,999百万円減少したことなどから、当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ2,789百万円減少し、184,769百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ5,749百万円減少し、57,636百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は10,459百万円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上などによるものであり、前年同期に得られた資金16,023百万円に比べ5,563百万円の収入減となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は2,891百万円となりました。これは主として、非キャッシュである3ヶ月超の定期預金からの払戻しがあったものの、有形固定資産の取得による支出6,724百万円、米国子会社の株式取得による支出3,922百万円などによるものであり、前年同期に使用した資金6,723百万円に比べ3,832百万円の支出減となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は12,958百万円となりました。これは主として、自己株式の取得などによるものであり、前年同期に使用した資金2,647百万円に比べ10,310百万円の支出増となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期通期の連結業績予想につきましては、当社が事業展開している市場環境と直近の業績動向等を踏まえ、当社グループの業績予測を精査した結果、平成29年11月13日付けで公表いたしました連結業績予想を、次のとおり修正いたします。

なお、業績予想の前提となる下半期（平成30年4月1日～平成30年9月30日）の為替レートにつきましては、1米ドル＝105円、1ユーロ＝130円を想定しております。

通期連結業績予想（平成29年10月1日～平成30年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	136,300	23,600	23,900	17,500	111.24
今回修正予想 (B)	144,300	26,600	26,900	19,200	124.03
増減額 (B - A)	8,000	3,000	3,000	1,700	—
増減率 (%)	5.9	12.7	12.6	9.7	—

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	83,902	70,313
受取手形及び売掛金	33,608	35,346
商品及び製品	8,742	8,431
仕掛品	16,389	16,450
原材料及び貯蔵品	6,620	7,268
その他	7,729	7,189
貸倒引当金	△159	△166
流動資産合計	156,834	144,832
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	31,668	35,327
機械装置及び運搬具(純額)	9,843	10,022
工具、器具及び備品(純額)	3,951	4,277
土地	16,545	16,727
リース資産(純額)	299	327
建設仮勘定	5,983	4,787
有形固定資産合計	68,291	71,469
無形固定資産		
のれん	9	4,022
その他	1,688	1,603
無形固定資産合計	1,697	5,625
投資その他の資産		
投資有価証券	3,684	4,153
繰延税金資産	6,412	6,267
その他	2,429	2,519
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	12,507	12,921
固定資産合計	82,497	90,016
資産合計	239,331	234,849

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,232	6,238
電子記録債務	8,866	5,480
短期借入金	2,230	2,264
1年内返済予定の長期借入金	3,194	3,182
未払法人税等	3,517	3,483
賞与引当金	4,570	3,913
災害損失引当金	—	131
その他	12,446	13,028
流動負債合計	40,059	37,723
固定負債		
長期借入金	3,683	3,598
厚生年金基金解散損失引当金	—	534
退職給付に係る負債	7,025	7,138
その他	1,004	1,086
固定負債合計	11,713	12,356
負債合計	51,773	50,080
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,928	34,928
資本剰余金	34,672	34,672
利益剰余金	131,678	139,429
自己株式	△16,060	△26,060
株主資本合計	185,219	182,970
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,259	1,553
為替換算調整勘定	1,210	263
退職給付に係る調整累計額	△750	△687
その他の包括利益累計額合計	1,719	1,129
非支配株主持分	618	669
純資産合計	187,558	184,769
負債純資産合計	239,331	234,849

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	64,953	73,074
売上原価	32,915	35,383
売上総利益	32,038	37,690
販売費及び一般管理費	20,876	22,695
営業利益	11,161	14,995
営業外収益		
受取利息	97	77
投資不動産賃貸料	33	44
為替差益	527	77
持分法による投資利益	55	53
その他	229	233
営業外収益合計	943	486
営業外費用		
支払利息	57	32
不動産賃貸費用	38	60
自己株式取得費用	—	103
その他	29	66
営業外費用合計	125	264
経常利益	11,978	15,217
特別利益		
固定資産売却益	11	11
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	11	11
特別損失		
固定資産売却損	5	52
固定資産除却損	29	13
災害による損失	—	201
厚生年金基金解散損失引当金繰入額	—	534
特別損失合計	35	800
税金等調整前四半期純利益	11,954	14,428
法人税等	3,001	3,967
四半期純利益	8,953	10,461
非支配株主に帰属する四半期純利益	35	31
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,917	10,429

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
四半期純利益	8,953	10,461
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	297	293
為替換算調整勘定	3,038	△928
退職給付に係る調整額	70	63
持分法適用会社に対する持分相当額	30	2
その他の包括利益合計	3,436	△569
四半期包括利益	12,390	9,892
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,322	9,839
非支配株主に係る四半期包括利益	68	52

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	11,954	14,428
減価償却費	4,707	4,919
賞与引当金の増減額(△は減少)	5	△645
受取利息及び受取配当金	△120	△100
支払利息	57	32
持分法による投資損益(△は益)	△55	△53
売上債権の増減額(△は増加)	△1,418	△2,147
たな卸資産の増減額(△は増加)	730	△619
仕入債務の増減額(△は減少)	493	△1,972
その他	1,567	652
小計	17,923	14,494
利息及び配当金の受取額	117	100
利息の支払額	△57	△32
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,960	△4,102
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,023	10,459
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	521	7,810
有価証券の売却による収入	1,000	—
有形固定資産の取得による支出	△7,647	△6,724
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△3,922
その他	△598	△54
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,723	△2,891
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	163	△24
長期借入金の返済による支出	△96	△97
自己株式の取得による支出	△0	△10,103
配当金の支払額	△2,679	△2,680
その他	△34	△53
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,647	△12,958
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,313	△359
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,964	△5,749
現金及び現金同等物の期首残高	53,595	63,385
現金及び現金同等物の四半期末残高	62,560	57,636

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	24,187	29,881	8,826	62,895	2,057	64,953	—	64,953
セグメント間の内部売上高又は振替高	844	442	8	1,294	252	1,546	△1,546	—
計	25,031	30,324	8,834	64,189	2,310	66,500	△1,546	64,953
セグメント利益	8,367	8,723	1,919	19,009	115	19,124	△7,963	11,161

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△7,963百万円には、セグメント間取引消去△724百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△7,239百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年10月1日至平成30年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	27,941	34,157	8,681	70,780	2,293	73,074	—	73,074
セグメント間の内部売上高又は振替高	783	403	5	1,192	310	1,502	△1,502	—
計	28,725	34,560	8,686	71,973	2,603	74,576	△1,502	73,074
セグメント利益	10,003	11,282	1,880	23,166	198	23,364	△8,369	14,995

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△8,369百万円には、セグメント間取引消去△675百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△7,694百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(自己株式の消却)

当社は、平成30年4月20日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、自己株式の消却を実施いたしました。

(1) 消却する株式の種類

当社普通株式

(2) 消却する株式の数

2,518,400株

(3) 消却日

平成30年4月26日